不完全変態と完全変態

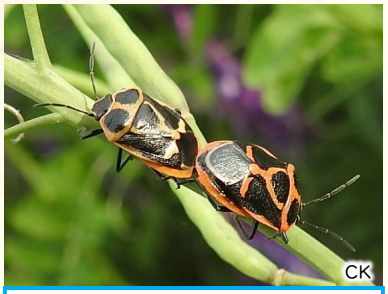
変態とは、いきものが成長するときに姿を変えることで、多くの昆虫は不完全変態の種と完全変態の種に分けることができます。

■不完全変態（トンボ目、バッタ目、カマキリ目、カメムシ目など）

卵からふ化してから、幼虫→成虫というように成長します。
幼虫は脱皮をくり返して大きくなりますが、はねがないので飛ぶことはできません。

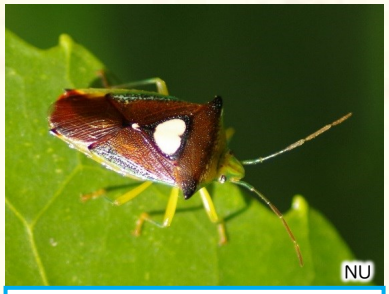
■完全変態（ハチ目、コウチュウ目、チョウ目、ハエ目など）

卵からふ化してから、幼虫→さなぎ→成虫というように成長します。
完全変態の昆虫は幼虫と成虫の姿が大きく変わります。



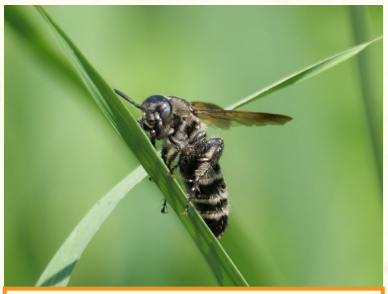
□ナガメ（カメムシ目カメムシ科）
アブラナ科の植物を好み、「菜の花につくカメムシ」ということから「ナガメ」と名付けられた。

□アカスジカメムシ（カメムシ目カメムシ科）
体長1cmほどの赤と黒のしま模様が特徴のカメムシ。セリ科の植物の花でよく見られる。



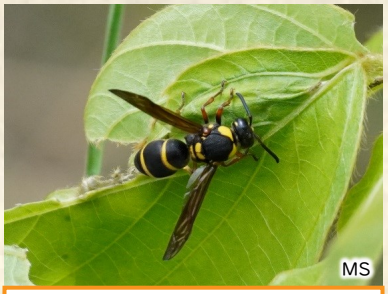
□エサキモンキツノカメムシ（カメムシ目ツノカメムシ科）
クリーム色のハートマークが特徴的なカメムシ。メスが卵や幼虫を外敵から守る習性をもつ。

□オオホシオナガバチ（ハチ目ヒメバチ科）
長い産卵管をもつオナガバチの一種。枯れ木の中のキバチ類やカミキリムシの幼虫などに卵を産み付ける。

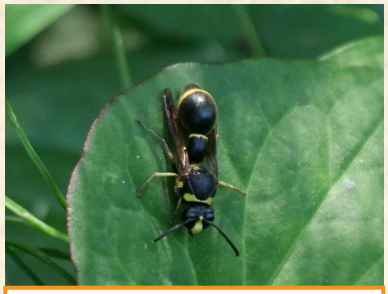


□ヒメハラナガツチバチ（ハチ目ツチバチ科）
地中のコガネムシ類の幼虫に卵を産み付ける寄生バチの一種。ふ化した幼虫は宿主を食べて育つ。

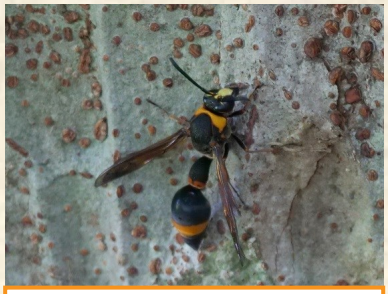
□キンケハラナガツチバチ（ハチ目ツチバチ科）
ヒメハラナガツチバチに似るが、本種は全体的に黄褐色の毛が生える。地中のコガネムシ類の幼虫に卵を産み付ける。



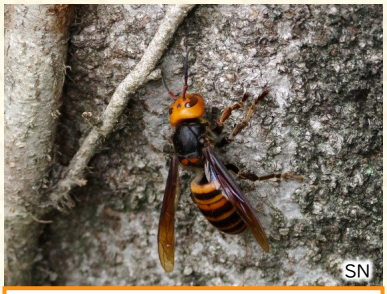
□オオフタオビドロバチ（ハチ目ｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ科）
腹部に2本の黄色い帯があるドロバチ。竹筒などに巣をつくり、捕まえたガの幼虫などを運び入れる。



□ミカドトックリバチ（ハチ目スズメバチ科）
体長10-15mmほどの、黒色に黄色い模様が入ったドロバチ。とっくりの形をした巣をつくる。



□スズバチ（ハチ目スズメバチ科）
体長17-26mmほどの、黒色にオレンジの模様が入ったドロバチ。木の枝などに泥でできた巣をつくる。



□オオスズメバチ（ハチ目スズメバチ科）
世界最大のスズメバチ。木のうろや地中に巣をつくる。攻撃的な性格で、強い毒性をもつため非常に危険。

□コガタスズメバチ（ハチ目スズメバチ科）
人家の軒下や生い茂った木など雨の当たらない場所に巣をつくる。夏から秋にかけて攻撃性が増すため、注意が必要。

□モンスズメバチ（ハチ目スズメバチ科）
腹部の黄色い帯が波打っているように見えるスズメバチ。夜にも活動し、特にセミを好んで捕まえて幼虫のエサにする。

□キアシナガバチ（ハチ目スズメバチ科）
背中にある2本の黄色い帯が特徴のアシナガバチ。攻撃性が高く、巣に近づくとおそってくる。

□セグロアシナガバチ（ハチ目スズメバチ科）
キアシナガバチに似ているが、本種は背中が茶色みがかり、メスは触角全体が黄色い。攻撃性が高く、注意が必要。

□フタモンアシナガバチ（ハチ目ｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ科）
腹部にある2つの黄色い斑紋が特徴のアシナガバチ。大人しい性格だが、巣を刺激するとおそってくる。

□キムネクマバチ（ハチ目ミツバチ科）
体長2cmを超えるずんぐりとした体型のハチ。胸部に黄色い毛が生える。温厚な性格で、花の蜜をもとめて飛び回る。

□セイヨウミツバチ（ハチ目ミツバチ科）
ハチミツ作りのために海外から導入されたミツバチ。ニホンミツバチよりやや大きく、体色は黄色みが強い。

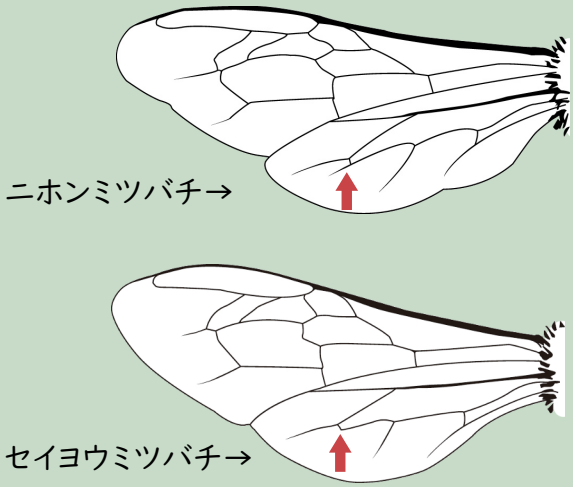
□ニホンミツバチ（ハチ目ミツバチ科）
木のうろなどに巣をつくる日本在来のミツバチ。飼育がやや難しく、取れるハチミツの量も少ない。

□クロヤマアリ（ハチ目アリ科）
体長5mmほどの黒いアリ。
最も身近なアリの一つで、公園や草原などでよく見られる。

□トビイロシワアリ（ハチ目アリ科）
体長2.5mmほどのこげ茶色のアリ。
街中でよく見られ、アスファルトのすき間などにも巣をつくる。

ニホンミツバチとセイヨウミツバチの見分け方

大きさはニホンミツバチのほうがやや小さい。体色はニホンミツバチが全体的に黒っぽく、セイヨウミツバチが黄色っぽく見えます。
また、後ろばねの翅脈（はねにある筋）で確実に見分けることができ、矢印の部分の翅脈の入り方が異なります。



□ウスバカゲロウ（ｱﾐﾒｶｹﾞﾛｳ目ｳｽﾊﾞｶｹﾞﾛｳ科）
アリジゴクと呼ばれる幼虫は、砂場にすりばち状の巣をつくり、巣に落ちてきた昆虫などを大きなあごで捕まえる。

□トウキョウヒメハンミョウ（ｺｳﾁｭｳ目ﾊﾝﾐｮｳ科）
体長1cmほどのやや小型のハンミョウ。
分布は局所的で、東京や北九州の周辺に生息している。

□マイマイカブリ（コウチュウ目オサムシ科）
カタツムリを主食とする大型の甲虫。
日本に広く分布しているが、地域によって色や形が異なる。

□ハイイロゲンゴロウ（ｺｳﾁｭｳ目ｹﾞﾝｺﾞﾛｳ科）
学校のプールでも見られる小型のゲンゴロウ。ほかのゲンゴロウと異なり、水面から直接飛び立つことができる。

□ノコギリクワガタ（コウチュウ目クワガタムシ科）
強く曲がる大あごが特徴のクワガタムシ。
赤褐色の個体が多いが、まれに黒い個体も現れる。

□ヒラタクワガタ（コウチュウ目クワガタムシ科）
雑木林や河川林で見られるクワガタムシ。
川口市内では個体数が少なくあまり見られない。

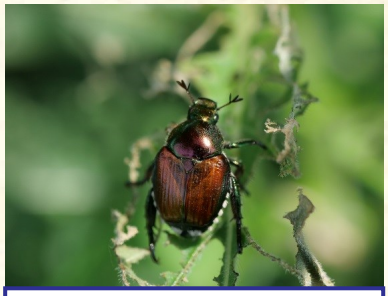
□コクワガタ（コウチュウ目クワガタムシ科）
都市部で最も身近に見られるクワガタムシ。公園や雑木林の樹液の出ている木に集まる。

□オオセンチコガネ（コウチュウ目センチコガネ科）
動物のフンに集まるコガネムシの仲間。
地域によって、赤や緑、青などさまざまな体色の個体が見られる。

□ヒゲブトハナムグリ（コウチュウ目ヒゲブトハナムグリ科）
体長1cmほどの銅色の甲虫。オスの触角は大きく目立つが、メスは小さい。
写真の個体はオス。

□カブトムシ（コウチュウ目コガネムシ科）
オスは立派な角をもつ大型の甲虫。
夜になるとクヌギやコナラの樹液に集まり、ほかの昆虫と場所を取り合う。

□コカブト（コウチュウ目コガネムシ科）
成虫はほかの昆虫やその死がいを食べ、樹液に集まることは少ない。成虫の寿命は長く、1年以上生きる。



□マメコガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
体長1cmほどの小さなコガネムシ。
さまざまな植物に集まり、集団で見られることが多い。

□セマダラコガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
まだら模様のはねをもった小さなコガネムシ。色や模様には変異が多く、さまざまなタイプの個体が見られる。

□アオドウガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
コガネムシより光沢がにぶく、腹部の端に毛が生えている。さまざまな植物の葉を食べる。

□ドウガネブイブイ（コウチュウ目コガネムシ科）
全身がにぶい銅色をしたコガネムシの仲間。さまざまな植物の葉を食べるため、時に農業害虫とされる。

□コガネムシ（コウチュウ目コガネムシ科）
コガネムシの仲間は似ている種が多いが、本種は特に強い金属光沢があり、あしも全体が緑色になる。

□コフキコガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
黄褐色の毛をまとったはねをもつこげ茶色のコガネムシ。幼虫は広葉樹の根を、成虫は広葉樹の葉を食べる。

□クロカナブン（コウチュウ目コガネムシ科）
光沢のある黒色のはねが特徴。
平地に多く生息する種だが、川口市内の個体数は多くない。

□カナブン（コウチュウ目コガネムシ科）
褐色や緑色などさまざまな体色の個体が見られる。前ばねを閉じたまま後ろばねを出して飛ぶことができる。

□コアオハナムグリ（コウチュウ目コガネムシ科）
花にもぐりこんで花の蜜や花粉を食べる。体色は緑色や銅色の個体が見られ、白い斑紋が散らばっている。

□シラホシハナムグリ（コウチュウ目コガネムシ科）
樹液に集まるハナムグリの仲間。シロテンハナムグリに似るが、本種は頭部の中央がへこんでいない。

□シロテンハナムグリ（コウチュウ目コガネムシ科）
シラホシハナムグリに似るが、本種は頭部の中央がへこむ。銅色や赤色などさまざまな体色の個体が見られる。

□ジョウカイボン（コウチュウ目ジョウカイボン科）
雑木林や河川敷でよく見られる甲虫。成虫は小さな昆虫を捕食するほか、花の蜜や花粉を食べることも多い。

□サビキコリ（コウチュウ目コメツキムシ科）
公園や雑木林でよく見られるコメツキムシ。植物の葉の上に見られるほか、夜は灯りに飛来することもある。

□タマムシ（コウチュウ目タマムシ科）
金属光沢のある緑色に赤い筋が入った美しい甲虫。真夏の昼間に雑木林の高いところを飛ぶ。

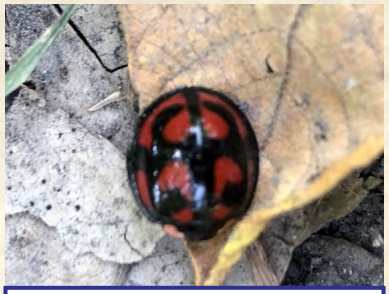
□ヨツボシオオキスイ（コウチュウ目オオキスイムシ科）
黒いはねに4つの黄色い点が特徴の甲虫。夏場に樹液の出るクヌギやコナラなどでよく見られる。

□ヨツボシケシキスイ（コウチュウ目ケシキスイ科）
体長4-14mmほどの、黒色に4つの赤い斑紋が目立つ甲虫。雑木林に生息し、樹液の出ている木に集まる。

□ナナホシテントウ（コウチュウ目テントウムシ科）
最も身近なテントウムシの一つで、赤色に7つの黒い紋が特徴。幼虫も成虫もアブラムシを食べて育つ。

□ヒメカメノコテントウ（コウチュウ目テントウムシ科）
人家の庭先や公園でよく見られるテントウムシ。はねの模様は変異は多く、さまざまな模様の個体が存在する。

□ナミテントウ（コウチュウ目テントウムシ科）
出会う機会の多い身近なテントウムシの一つ。別種と勘違いするほど、さまざまな模様の個体が存在する。



□カメノコテントウ（コウチュウ目テントウムシ科）
カメの甲羅のような模様の大型のテントウムシ。クルミやヤナギの木で見られる。ハムシなどほかの昆虫の幼虫を食べる。

□キイロテントウ（コウチュウ目テントウムシ科）
あざやかな黄色いはねのテントウムシ。うどんこ病菌などの葉に付いたカビを食べる益虫。

□ムネアカオオクロテントウ（コウチュウ目テントウムシ科）
黒いはねと赤い頭部と胸部が特徴の外来種。マルカメムシの幼虫を食べると考えられている。

□アカホシテントウ（コウチュウ目テントウムシ科）
黒色に赤い紋が浮かび上がるような模様のテントウムシ。クリやウメの害虫とされるタマカイガラムシ類を食べる。

□キマワリ（コウチュウ目ゴミムシダマシ科）
雑木林に生息し、木の幹や枯れ木を歩く姿がよく見られる。黒色や青みがかった個体などさまざまな体色が見られる。

□サトユミアシゴミムシダマシ（コウチュウ目ゴミムシダマシ科）
雑木林の倒木や朽ち木の近くでよく見られる。前あしが弓のように曲がっていることから名付けられた。

□マメハンミョウ（コウチュウ目ツチハンミョウ科）
幼虫はバッタ類の卵のかたまりを食べて育つ。危険を感じると、あしの関節から有毒な液体を出す。

□ウスバカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
ほかのカミキリムシよりも前ばねがうすい大型のカミキリムシ。夜行性で昼間は木のくぼみなどに隠れている。

□ノコギリカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
灯りによく飛来する黒色のカミキリムシ。幼虫はタケの根も食べるため、他のカミキリムシが少ない竹林でも見られる。

□ミヤマカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
胸部の横しわが特徴の大型のカミキリムシ。夜行性で夜になるとクヌギなどの樹液に集まる。

□キマダラミヤマカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
茶褐色に金色の毛が生えたまだら模様のカミキリムシ。夜に樹液に集まるほか、花粉を食べることもある。

□ヨツスジトラカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
黄色と黒のしま模様をしたカミキリムシ。アシナガバチに擬態して身を守っていると考えられている。

□カタシロゴマフカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
白、黒、灰色のまだら模様をしたカミキリムシ。雑木林などに生息し、倒木や枯れ木に集まる。

□ゴマダラカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
白い点模様がある黒いカミキリムシ。さまざまな木を食樹としており、街中の公園や街路樹でもよく見られる。

□センノキカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
はねには黄土色の細かな毛が生え、毛の密度によってしま模様に見える。ハリギリなどウコギ科の植物で見られる。

□クワカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
黄土色の毛が生えたはねをもつカミキリムシ。クワやイチジクなどさまざまな広葉樹で見られる。

□キボシカミキリ（コウチュウ目カミキリムシ科）
黄色い斑紋と長い触角が特徴のカミキリムシ。斑紋は地域や個体によって変異が多い。クワやイチジクの木などで見られる。

□ヨツモンカメノコハムシ（コウチュウ目ハムシ科）
サツマイモの害虫として知られるハムシ。以前は沖縄以南にしか生息しなかったが、分布が拡大している。

□クロトゲハムシ（コウチュウ目ハムシ科）
体中にトゲがある体長5mmほどの黒いハムシ。ススキの葉などを食べるため、河川敷などでよく見られる。

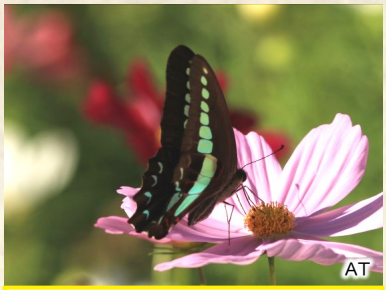
□ヨモギハムシ（コウチュウ目ハムシ科）
体長7-10mmほどの人家の庭先や畑のヨモギでよく見られるハムシ。地表をよく歩き回り、飛ぶことは少ない。

□クロウリハムシ（コウチュウ目ハムシ科）
体長6mmほどの黒いはねをもつハムシ。ウリ科のほか、さまざまな植物の葉を食べる。

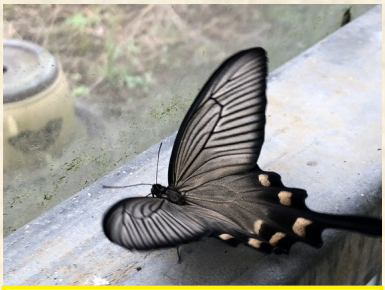
□クロボシツツハムシ（コウチュウ目ハムシ科）
テントウムシに似ているがハムシの仲間。春の雑木林でよく見られ、サクラやコナラなど広葉樹の葉を食べる。

□エゴヒゲナガゾウムシ（コウチュウ目ゾウムシ科）
白く幅広い頭部と長い触角が特徴のゾウムシ。エゴノキの実に集まり、メスは実に穴を開けて産卵する。

□コフキゾウムシ（コウチュウ目ゾウムシ科）
緑色や黄色の鱗片におおわれたゾウムシ。クズなどマメ科の植物が生い茂る草地に生息している。

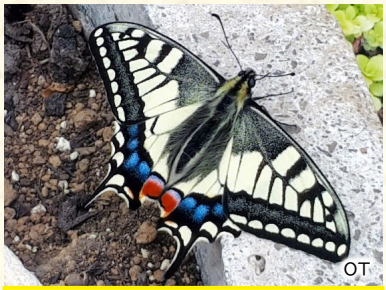


□アオスジアゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）
黒いはねに青緑色の帯が目立つアゲハチョウ。オスは湿った地面から吸水する姿がよく見られる。

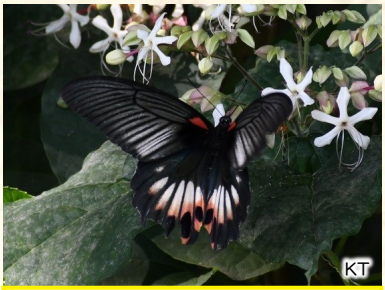


□ジャコウアゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）
幼虫は有毒のウマノスズクサを食べるため、体内に毒をもつ。天敵が少ないため比較的ゆるやかに飛ぶ。

□アゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）
幼虫はミカン科の植物を食べるため、人家の庭先などでもよく見られる。さなぎで越冬する。



□キアゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）
アゲハより濃い黄色をしている。
幼虫はニンジンやパセリなどセリ科の植物の葉を食べる。



□ナガサキアゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）
温暖化などの影響で分布を北に広げているアゲハチョウ。南西諸島ではまれに尾状突起をもつメスが現れる。

□クロアゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）
公園や雑木林などでよく見られるが、やや暗めの環境を好む。
オスは後ろばねに白い模様がある。

□カラスアゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）
青緑色に光る黒いはねのアゲハチョウ。
やや発達した森林に生息するが、街中の公園でも見られることがある。

□ツマキチョウ（チョウ目シロチョウ科）
春にのみ林縁や草原に現れるチョウ。
前ばねの先端はオスがオレンジ色で、メスは白い。写真の個体はメス。

□モンシロチョウ（チョウ目シロチョウ科）
最も身近でよく見られるチョウの一つ。
幼虫はキャベツなどのアブラナ科の植物の葉を食べる。

□スジグロシロチョウ（チョウ目シロチョウ科）
モンシロチョウに似るが、本種ははね全体に黒い筋が入る。モンシロチョウよりもうす暗く湿った環境を好む。

□モンキチョウ（チョウ目シロチョウ科）
公園や河川敷などでよく見られる。
オスは黄色だが、メスは黄色型と白色型の2つのタイプが存在する。

□キタキチョウ（チョウ目シロチョウ科）
モンキチョウよりやや小さな黄色いチョウ。
オス・メスともに黄色い。成虫で越冬する。

□ウラギンシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
はねの裏面が銀色のシジミチョウ。
幼虫はマメ科のクズやフジの葉を食べる。
成虫で越冬する。

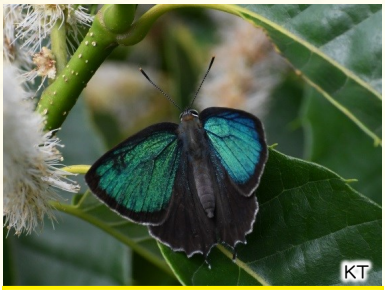
□ベニシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
前ばねが赤く、後ろばねが黒褐色のシジミチョウ。草原や畑の周り、庭の花壇などの明るい場所でよく見られる。

□ムラサキシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
青紫色のはねが美しいシジミチョウ。
公園や雑木林などで見られる。成虫は集団になって越冬する。

□ムラサキツバメ（チョウ目シジミチョウ科）
ムラサキシジミに似るが、本種は後ろばねに尾状突起がある。幼虫はマテバシイなどの葉を食べる。

□アカシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
クヌギやコナラの多い雑木林で見られる。
夕方に木の上を活発に飛び回り、下へはなかなか下りてこない。

□ミズイロオナガシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
クヌギやコナラの多い雑木林で見られる。
成虫は6～7月に現れ、夕方になると活発に飛ぶ。



□ミドリシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
埼玉県の県の蝶。オスははね全体が緑色にかがやき、とても美しい。夕方に木の上を活発に飛び回る。

□ヤマトシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
最も身近に見られるチョウの一つ。
小さな空き地などでも見られ、地面近くを飛んでいる。

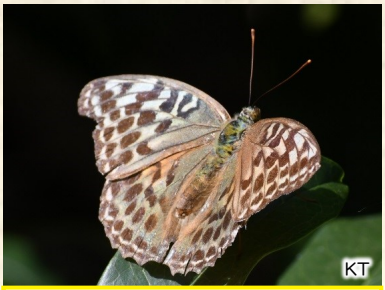
□ツバメシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
日当たりの良い草原や河川敷に生息しているシジミチョウの仲間。
後ろばねに小さな尾状突起がある。

□ルリシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
林縁や草原で見られるシジミチョウ。
幼虫はマメ科やタデ科などさまざまな種類の植物の葉を食べる。

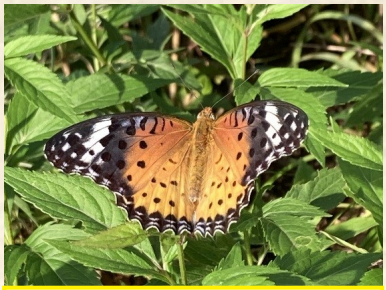
□ウラナミシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
南の暖かい地域で越冬し、発生をくり返しながら北上する。そのため、川口市内では秋になると個体数が多くなる。

□クロマダラソテツシジミ（チョウ目シジミチョウ科）
かつては日本には生息していなかったが、沖縄や九州南部で定着し、川口市内でも近年目撃されるようになった。

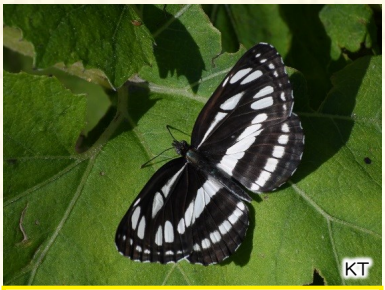
□テングチョウ（チョウ目タテハチョウ科）
とがった頭部が天狗の鼻のように見えることが名前の由来で、雑木林に生息する。時に大発生することがある。



□ミドリヒョウモン（チョウ目タテハチョウ科）
オレンジ色に黒い斑紋が目立つヒョウ柄のチョウ。山地ではよく見られるが、川口市内での目撃数は少ない。

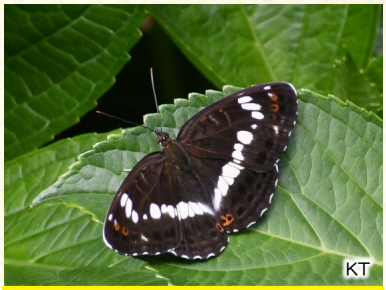


□ツマグロヒョウモン（チョウ目タテハチョウ科）
近年川口市内でも普通に見られるようになった。メスは前ばねに白黒の模様が入る。写真の個体はメス。

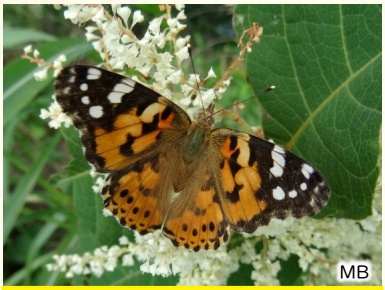


□コミスジ（チョウ目タテハチョウ科）
黒色に3本の白い帯模様が入ったタテハチョウ。ミスジチョウの仲間では最もよく見られる。

□ホシミスジ（チョウ目タテハチョウ科）
コミスジに似るが、本種は一番前の白い帯が細かく分かれるほか、裏面に黒い点が散らばるような模様がある。



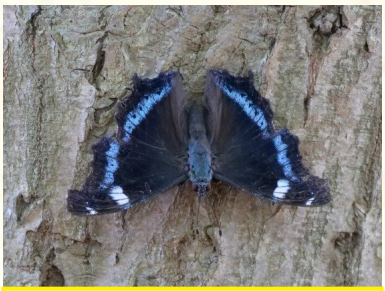
□イチモンジチョウ（チョウ目タテハチョウ科）
黒色に一筋の白い帯模様が入ったタテハチョウ。幼虫はスイカズラ科の植物の葉を食べる。



□ヒメアカタテハ（チョウ目タテハチョウ科）
樹液はあまり好まず、花の蜜によく集まる。世界中に広く分布しており、川口市内でもよく見られる。

□アカタテハ（チョウ目タテハチョウ科）
樹液や花によく集まる朱色のタテハチョウ。林縁や草地などで見られる。
成虫で越冬する。

□キタテハ（チョウ目タテハチョウ科）
オレンジ色に黒い斑紋が広がるタテハチョウ。畑や草地などでよく見られる。
成虫で越冬する。



□ルリタテハ（チョウ目タテハチョウ科）
水色の帯が目立つタテハチョウ。
樹液や果実を好み、雑木林の近くでよく見られる。成虫で越冬する。

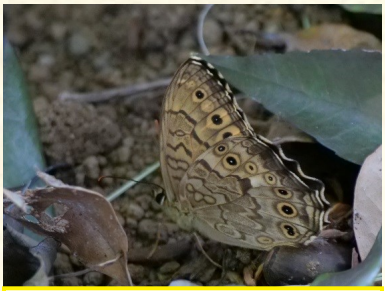
□コムラサキ（チョウ目タテハチョウ科）
ヤナギ類の生える河川林や雑木林で見られる。オスのはねは、見る角度によって色が変わり、青紫色にかがやく。

□ゴマダラチョウ（チョウ目タテハチョウ科）
黒色に白い斑紋が散らばるタテハチョウ。エノキの生える公園や雑木林などでよく見られる。

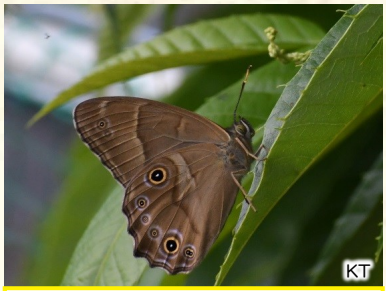
□アカボシゴマダラ（チョウ目タテハチョウ科）
関東地方の個体は中国大陸原産の外来種。後ろばねの赤い斑紋が名前の由来だが、春型の個体は全体的に白くなる。

□ヒメウラナミジャノメ（チョウ目タテハチョウ科）
はねの裏面全体に細かな波模様が広がり、後ろばねには左右に5つの目玉模様がある。

□ヒメジャノメ（チョウ目タテハチョウ科）
明るい草地を好む灰褐色のチョウ。
草地を跳ねるように飛び、葉の上によくとまる。



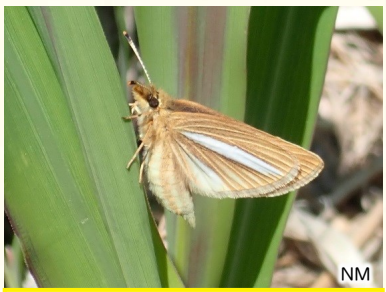
□サトキマダラヒカゲ（チョウ目タテハチョウ科）
複雑な模様をした黄褐色のチョウ。
雑木林に生息し、クヌギやコナラの樹液に集まる。



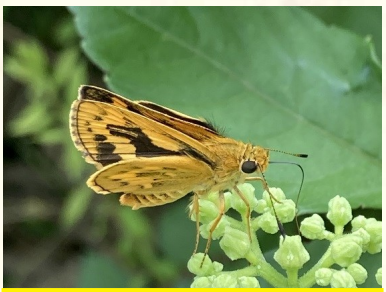
□ヒカゲチョウ（チョウ目タテハチョウ科）
雑木林などうす暗い環境を好む淡褐色のチョウ。幼虫はタケ類やササ類の葉を食べる。

□クロコノマチョウ（チョウ目タテハチョウ科）
はねの裏面が枯れ葉のような模様のチョウ。秋には落ちた柿の実などに集まる。
成虫で越冬する。

□ダイミョウセセリ（チョウ目セセリチョウ科）
黒いはねに白い模様が入ったセセリチョウ。はねを開いた状態でとまることが多い。雑木林の周辺に生息している。



□ギンイチモンジセセリ（チョウ目セセリチョウ科）
後ろばねの裏面に一筋の白い模様が入ったセセリチョウ。ススキなどが多く生える河川敷や草原で見られる。



□キマダラセセリ（チョウ目セセリチョウ科）
黒色に黄色の帯模様が入ったセセリチョウ。林縁や草原の花に集まる姿がよく見られる。

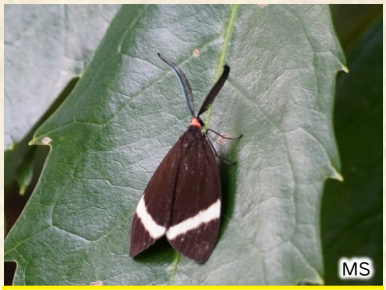
□チャバネセセリ（チョウ目セセリチョウ科）
秋にかけて個体数が増加する茶色いセセリチョウ。後ろばねの裏面に小さな白い点が円を描くように並ぶ。

□イチモンジセセリ（チョウ目セセリチョウ科）
チャバネセセリに似るが、本種ははねの裏面の白い点がやや大きく、一列に並んでいる。

□クロハネシロヒゲナガ（チョウ目ヒゲナガ科）
名前のとおり、とても長く白い触角と黒いはねが特徴のガの仲間。メスの触角はオスと比べると短いが、長い触角をもつ。

□チャミノガ（チョウ目ミノガ科）
幼虫は枝を使いミノをつくるため、「ミノムシ」と呼ばれる。メスは成虫になってもはねがなく、一生をミノの中で生活する。

□アシナガモモブトスカシバ（チョウ目ｽｶｼﾊﾞｶﾞ科）
毛の生えた長いあしが特徴のスカシバガ科の一種。幼虫は希少種であるゴキヅルを食草としている。



□ホタルガ（チョウ目マダラガ科）
白い帯模様が入った黒いはねと赤い頭部が特徴のガ。昼間にヒラヒラとゆるやかに飛ぶ。

□ミノウスバ（チョウ目マダラガ科）
腹部のオレンジ色の毛が目立つガ。
成虫は10月頃から出現し、時に大発生することがある。

□ヒルガオトリバ（チョウ目トリバガ科）
細長いはねをもつガの仲間。幼虫はヒルガオやサツマイモの葉や花を食べる。

□コブドウトリバ（チョウ目トリバガ科）
細長いはねをもつガの仲間。
後ろばねは3本に分かれており、鳥の羽根のような形をしている。

□シロオビノメイガ（チョウ目ツトガ科）
白い帯模様が入ったこげ茶色のはねをもつガ。ホウレンソウなどを食べるため、時には農業害虫とされる。

□モモノゴマダラノメイガ（チョウ目ツトガ科）
黒い点が散りばめられた模様の黄色いガ。幼虫はモモやクリの実を食べるため、時には農業害虫とされる。

□ヤママユ（チョウ目ヤママユガ科）
はねをひろげると15cmほどにもなる本州最大級のガ。成虫は口が退化しているため、何も食べずに生活する。

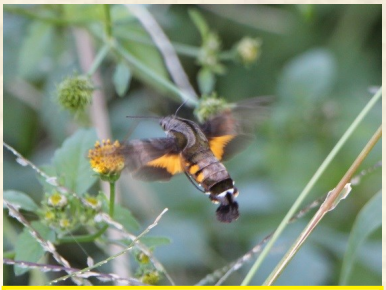
□オオミズアオ（チョウ目ヤママユガ科）
青白色や黄色みがかった白色のはねをもつ大型のガ。ヤママユと同じく口が退化しており、何も食べない。

□シモフリスズメ（チョウ目スズメガ科）
灰色にこげ茶色の模様が入った大型のスズメガ。夜行性で花の蜜に集まるほか、灯りにも飛来する。

□サザナミスズメ（チョウ目スズメガ科）
白黒の波模様と前ばね中央の白い点が特徴のスズメガ。幼虫はイボタノキなどのモクセイ科の植物を食べる。

□ウンモンスズメ（チョウ目スズメガ科）
全身が緑色の美しいスズメガ。後ろばねには赤い模様がある。街中でも見られることがあり、灯りによく集まる。

□オオスカシバ（チョウ目スズメガ科）
昼行性のスズメガの仲間。羽化直後は、はねに白い鱗粉が付いているが、飛び立つとすぐに落ちて透明になる。



□ホシホウジャク（チョウ目スズメガ科）
蜜を求めて花から花に飛び回る昼行性のガ。後ろばねには黄色い帯模様があり、飛んでいる時はよく目立つ。

□セスジスズメ（チョウ目スズメガ科）
背中と前ばねに筋模様が入ったスズメガ。黒くて大きな幼虫はとても目立ち、街中の道路で見かけることも多い。

□ユウマダラエダシャク（チョウ目ｼｬｸｶﾞ科）
鳥のフンのような模様のはねをもつガ。その模様で擬態して、外敵から見つからないようにしていると考えられている。

□ウメエダシャク（チョウ目シャクガ科）
日中にゆるやかに飛ぶシャクガの仲間。幼虫はウメやモモなどさまざまな植物の葉を食べる。

擬態の種類

別のいきものや周りの環境などに姿を似せることを擬態といいます。
擬態には大きく分けて、隠ぺい的擬態と標識的擬態があります。

■隠ぺい的擬態

（ナナフシモドキやアケビコノハなど）

周りの環境や物に姿を似せて、
自分を目立たなくさせる擬態です。

ナナフシモドキ

アケビコノハ

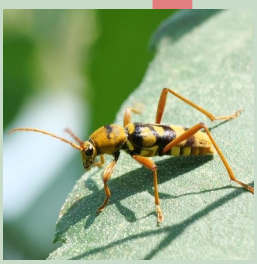
擬態

■標識的擬態

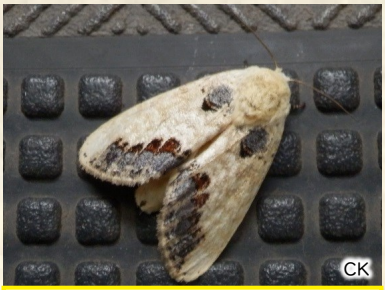
（ヨツスジトラカミキリなど）

毒をもつ別の昆虫に姿を似せて、
自分を目立たせる擬態です。
無害な昆虫が有毒の昆虫に擬態する「ベイツ型擬態」や、有毒の昆虫が別の有毒種に擬態する「ミューラー型擬態」などがあります。

セグロアシナガバチ



ヨツスジトラカミキリ



□モンクロシャチホコ（チョウ目シャチホコガ科）
クリーム色に黒い模様が特徴のシャチホコガの仲間。サクラの木に発生する害虫として有名。

□スジベニコケガ（チョウ目ヒトリガ科）
朱色の筋が規則的に並ぶ派手な模様のガ。よく街灯などに集まっている。
幼虫は落ち葉などを食べて育つ。

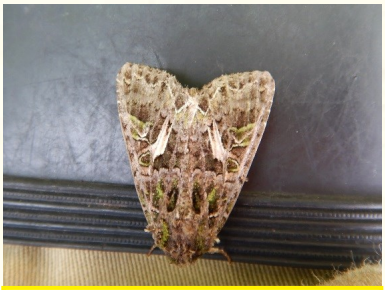
□カノコガ（チョウ目ヒトリガ科）
半透明の斑紋が入った黒いはねをもつガ。その模様が子どものシカの模様に似ていることが名前の由来。

□アケビコノハ（チョウ目ヤガ科）
枯れ葉のような前ばねとオレンジ色の美しい後ろばねが特徴のガ。はねを閉じてとまると枯れ葉そっくりに見える。

□オオウンモンクチバ（チョウ目ヤガ科）
褐色にこげ茶色の線が入ったはねをもつガ。幼虫はクズやフジなどマメ科の植物の葉を食べる。

□ミツモンキンウワバ（チョウ目ヤガ科）
前ばねの2つの白い紋と胸部の発達した毛（冠毛）が特徴のガ。ニンジンやダイズなどの農業害虫とされる。

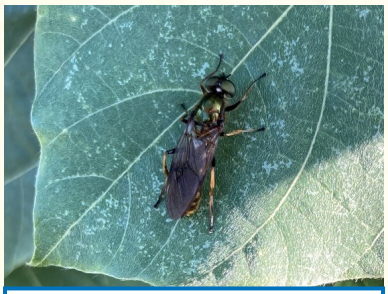
□ツメクサガ（チョウ目ヤガ科）
黄褐色のはねをもつ昼行性のガ。
アズキなどマメ科の植物の葉を食べるため、時には農業害虫とされる。



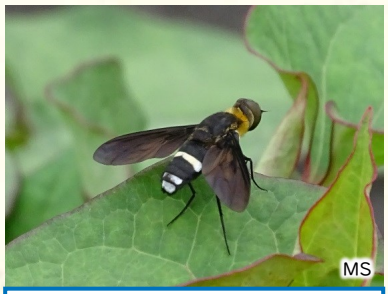
□シロスジアオヨトウ（チョウ目ヤガ科）
茶色と緑色の複雑な模様に2本の白い筋が入ったはねが特徴。幼虫はイヌタデやギシギシの葉を食べる。

□キイロホソガガンボ（ハエ目ガガンボ科）
カを大きくしたような見た目だが血は吸わない。成虫は花の蜜を好み、幼虫は地中に生息し、植物の根を食べて育つ。

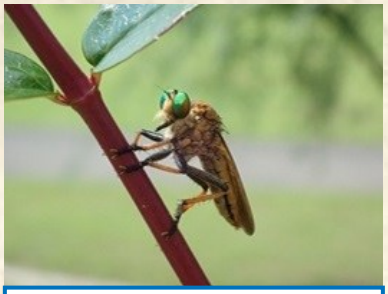
□ホリカワクシヒゲガガンボ（ハエ目ガガンボ科）
オレンジ色と黒色の派手な模様のガガンボ。オスの触角は名前のとおりくし状になる。写真の個体はメス。



□ルリミズアブ（ハエ目ミズアブ科）
金属光沢のある青緑色の体をもつミズアブ。メスはオスよりも体色が黒い。
写真の個体はオス。



□クロバネツリアブ（ハエ目ツリアブ科）
黒いはねと体をもつ日本最大のツリアブで体の白い帯模様が特徴。
河川敷など明るく開けた環境を好む。



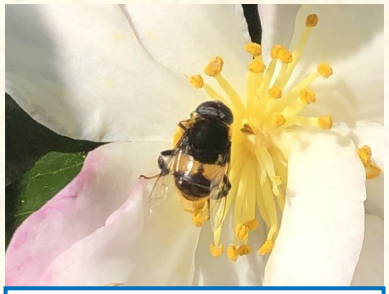
□アオメアブ（ハエ目ムシヒキアブ科）
緑色の複眼が目立つムシヒキアブの仲間。トンボや甲虫など自分より大きなえものを捕まえることもある。

□シオヤアブ（ハエ目ムシヒキアブ科）
オスの腹部先端に白い毛の束があるムシヒキアブの仲間。草原などの日当たりのよい場所でよく見られる。

□チャイロムシヒキ（ハエ目ムシヒキアブ科）
肉食性で他の虫を捕まえて体液を吸うムシヒキアブの仲間。飛行能力に優れ、すばやく飛び回る。

□ホソヒラタアブ（ハエ目ハナアブ科）
体長1cmほどの花の蜜を好むアブ。成虫は花の蜜をなめるが、幼虫はアブラムシを食べて育つ。

□ナミホシヒラタアブ（ハエ目ハナアブ科）
体長1cmほどの花の蜜を好むアブ。
腹部の一番前の黄色の帯だけ模様がつながっていない。



□オオハナアブ（ハエ目ハナアブ科）
黒い体に黄色の帯が目立つハナアブ。
複眼がくっついているのがオスで、離れているのがメス。写真の個体はオス。

クモ類 -くもるい-

クモの体は頭胸部と腹部に分かれ、8本のあしがある。昆虫と違い、はねや触角はもたない。巣を張るクモ類は全体の約半数で、巣を張らずにえものを捕らえる種も多く存在する。

□コクサグモ（クモ目タナグモ科）
庭木や生け垣などによく見られるクモ。
木や草の間にたな状の網を張り、網の奥にトンネル状の住居をつくる。

□ハラクロコモリグモ（クモ目コモリグモ科）
地中にもぐり、卵のうを守る習性をもつ。
オスは頭胸部から腹部にかけて白い筋が入る。

□イオウイロハシリグモ（クモ目キシダグモ科）
湿地や河川敷などで見られる大型のクモ。危険を感じると卵のうを口にくわえて移動させる習性をもつ。

□オナガグモ（クモ目ヒメグモ科）
松の葉のように細長い体型をしたクモ。
ねばりのない糸を張り、その糸を歩いてきたほかのクモを捕食する。

□シロカネイソウロウグモ（クモ目ヒメグモ科）
銀色の美しい腹部をもつクモ。
ほかのクモの巣に侵入して、巣の主が捕まえた昆虫などを食べる。

□ヤマトコツブグモ（クモ目コツブグモ科）
体長1mmほどの非常に小さなクモ。
湿地や草地に生息し、草木の根本などに
球状円網を張る。

□チュウガタシロカネグモ（クモ目アシナガグモ科）
腹部前方がこぶ状にもり上がり、黒い点
がある。明るい草地に生息し、草木の間
に水平円網を張る。

□ジョロウグモ（クモ目ジョロウグモ科）
身近に見られる大型のクモ。網目の細か
い円網を張り、円網の前後にバリアーと呼
ばれる粘着性のない網を張る。

□オニグモ（クモ目コガネグモ科）
人家の周りで見られる大型のクモ。
夕方から活動を始め、建物の軒下などに
大きな円網を張る。

□ドヨウオニグモ（クモ目コガネグモ科）
水田や河川敷などでよく見られるクモ。
草の間に垂直から水平までさまざまな
角度の円網を張る。

□キザハシオニグモ（クモ目コガネグモ科）
草原や湿地のススキなどでよく見られる
茶褐色のクモ。オニグモ類では非常に珍
しく、円網を水平に張る。

□ビジョオニグモ（クモ目コガネグモ科）
円網の一部が切れているキレ網を張る。
クモは切れた部分の上にある葉に住居を
つくり、えものを待ちぶせする。

□ワキグロサツマノミダマシ（クモ目コガネグモ科）
腹部の上面が緑色で、下面が黒褐色の
クモ。木の葉の間に円網を垂直に張る。
昼間は枝や葉の裏で休んでいる。

□コガネグモ（クモ目コガネグモ科）
日当たりの良い場所を好む大型のクモ。
高知県や鹿児島県では、本種のメスを競
わせる「クモ合戦」が行われている。

□ナガコガネグモ（クモ目コガネグモ科）
円網を垂直に張り、その中心部には縦に
直線状の白いジグザク模様が入る。
幼体の体は全体的に白っぽくなる。

□ゴミグモ（クモ目コガネグモ科）
網の中心部に食べかすや脱皮殻を集め、
クモはその中にとまる。体色はゴミと同じよ
うな色合いで保護色となっている。

□アシダカグモ（クモ目アシダカグモ科）
歩き回るクモの仲間では日本最大。
人家や神社などの建物に生息し、ゴキブ
リやハエなどを捕まえて食べる。

□キハダエビグモ（クモ目エビグモ科）
樹皮のような模様をしている体の平たいクモ。卵のうは樹皮につくられ、親グモは卵のうの上に乗るようにして守る。

□ヤマトヤドカリグモ（クモ目エビグモ科）
草の間を歩き回ってえものを探す灰褐色のクモ。河川敷や草地などの明るい環境を好んで生息する。

□キハダカニグモ（クモ目カニグモ科）
公園や雑木林のやや太い木の表面に生息している。樹皮のような体色は姿を隠すための保護色となっている。

□ハナグモ（クモ目カニグモ科）
花の中などで待ちぶせし、近づいてきた昆虫を捕食する。腹部の斑紋には変異が多く、模様のない個体も存在する。

□ワカバグモ（クモ目カニグモ科）
平地から山地まで広く生息し、公園や雑木林などで見られる。夕方になると、葉の上で前あしを広げてえものを待つ。

□メキリグモ（クモ目ワシグモ科）
腹部に灰色の毛が生えた黒いクモ。湿地や草原の石や倒木の下などに生息し、落ち葉の中を歩き回りえものを探す。

□ネコハエトリ（クモ目ハエトリグモ科）
人家の庭先や公園など人工的な環境でよく見られる。草や低木の葉の上を歩き回りえものを探す。

□マミジロハエトリ（クモ目ハエトリグモ科）
オスは頭胸部の前方に白い帯模様があり、まゆ毛のように見える。灰色や黄色などさまざまな体色の個体が見られる。

□チクニハエトリ（クモ目ハエトリグモ科）
灰褐色で細長い体型のハエトリグモ。水辺の草むらや落ち葉の上を歩き回ってえものを探している。

□ヤハズハエトリ（クモ目ハエトリグモ科）
ススキやアシなどでよく見られる。オスとメスで模様が異なり、メスは白い体に2本の黒い線が入る。写真の個体はオス。

□シラホシコゲチャハエトリ（クモ目ハエトリグモ科）
河川敷の石や倒木の下などに袋状の住居をつくる。オスは黒色の腹部にある4つの白い点が目立つ。

□ヤガタアリグモ（クモ目ハエトリグモ科）
アリのような見た目のハエトリグモ。一番前のあしが触角のように見えている。全身が黒い個体も存在する。

甲殻類

-こうかくるい-

全身がかたい甲殻でおおわれた節足動物。多くの種が海に生息しており、ワラジムシなどごく一部が陸上に進出している。

□テナガエビ（エビ目テナガエビ科）
成体のオスは2番目のあしがとても長くなり目立つ。長いあしはえものをつかんだり、ほかの個体と争うときなどに使う。

□スジエビ（エビ目テナガエビ科）
腹部に7本の黒い筋が入った淡水性のエビの一種。昼間は石の下や水草に隠れ、夜になると活発に動き出す。

□アメリカザリガニ（エビ目アメリカザリガニ科）
アメリカ南部原産の外来種。水草や水生昆虫など何でも食べる雑食性で、水の汚れにも耐性があり、繁殖力が強い。

□ベンケイガニ（エビ目ベンケイガニ科）
海に近い河川に生息するカニの一種。甲羅はゴツゴツとした質感で、両端に1対の切れこみがある。

□クロベンケイガニ（エビ目ベンケイガニ科）
河川敷や湿地のヨシ原などに生息し、泥の中に巣穴を掘って生活している。雑食性で水辺の植物や昆虫を食べる。

□モクズガニ（エビ目イワガニ科）
はさみに毛が密集するように生えている。幼生は海で成長し、成長とともに河口から河川を上り、生活する。

□オカダンゴムシ（ワラジムシ目オカダンゴムシ科）
人家の庭先や公園などでよく見られ、落ち葉などを食べて育つ。危険を感じると丸くなって身を守る。

□ワラジムシ（ワラジムシ目ワラジムシ科）
ダンゴムシと同じような環境に生息する。丸くなることはできないが、移動スピードはダンゴムシよりもやや速い。

貝類

-かいるい-

軟体動物の一つで、二枚貝や巻貝の仲間が含まれる。やわらかい体を守るためにかたい殻をもつ。

□ヤマトシジミ（マルスダレガイ目シジミ科）
海の水と川の水が混じり合う汽水域に生息する二枚貝。成長するにつれて黒くなっていく。

□ヒメタニシ（タニシ目タニシ科）
池沼や水田などに生息する淡水性の巻貝の仲間。汚れた水や環境の変化に強く、身近に見られるタニシの一つ。

外来種の脅威

人間の活動によって、それまで生息していなかった地域に持ちこまれたいきものを外来種といいます。外来種は海外から日本に持ちこまれたいきものだけでなく、在来種の場合でも国内のある地域からもともといなかった地域に持ちこまれた場合は外来種となります。

外来種は、生態系への影響や人への危害、農林水産業への被害など、さまざまな問題を引き起こす原因となっています。

特定外来生物とは？

外来生物法により、外来種のうち特に生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすおそれのあるものは「特定外来生物」に定められ、アライグマやウシガエルなどが指定されています。

「特定外来生物」に指定されると、飼育や栽培、生きたまま運ぶこと、別の場所に放すこと、売り買いしたり、人に配ったりすることなどが禁止されます。

外来種被害予防三原則

■「入れない」

外来種を入れないことが重要です

■「捨てない」

飼育している外来種は最後まで責任をもって飼いましょう

■「拡げない」

他の地域に拡げない（増やさない）ことが重要です

■川口市内で見られる外来種の一例

アライグマ
（特定外来生物）

ミシシッピアカミミガメ
（条件付特定外来生物）

ウシガエル
（特定外来生物）

カダヤシ
（特定外来生物）

ブルーギル
（特定外来生物）

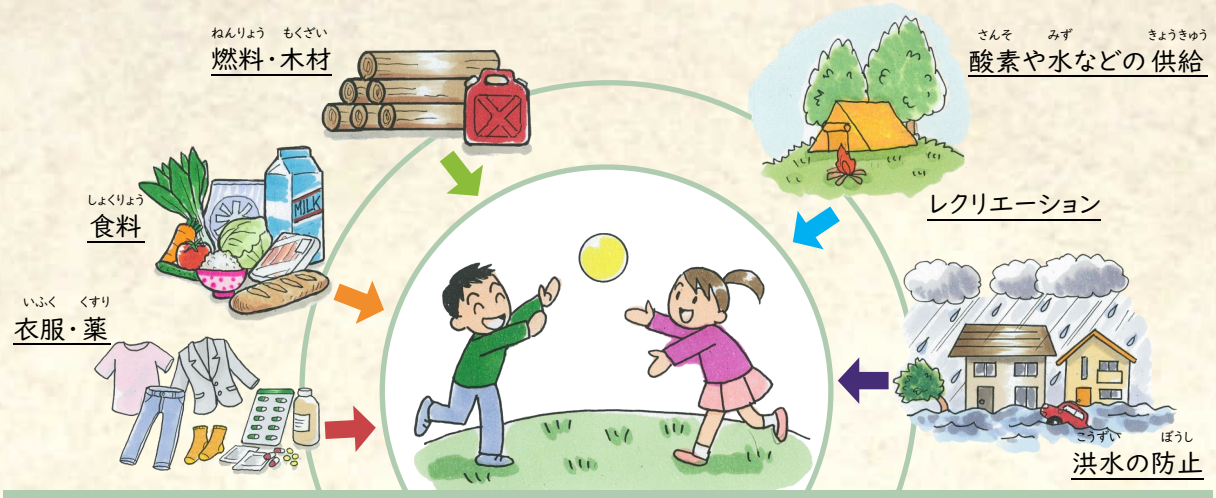
タケオオツクツク

アカボシゴマダラ
（特定外来生物）

アメリカザリガニ
（条件付特定外来生物）

※条件付特定外来生物…特定外来生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当分の間、適用除外とする生物の通称です。
2024年3月現在、アカミミガメとアメリカザリガニが指定されており、捕獲や飼育などが可能となっています。

生物多様性ってなんだろう？

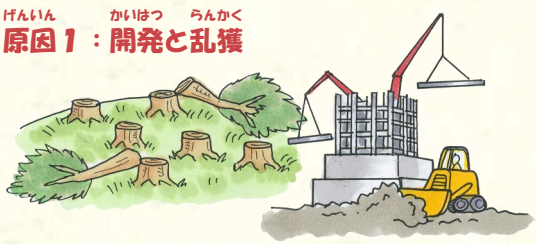


地球上には3,000万種のいきものがいるといわれており、色や形、大きさなどが違うだけでなく、同じ種のいきものであってもさまざまな個性をもっています。いきものがもつ個性や、すべてのいきものがお互いに支えあいながら生きていることを「生物多様性」といいます。わたしたちの暮らしも、さまざまな自然のめぐみで成り立っているのです。

■生物多様性の危機（失われている主な原因）

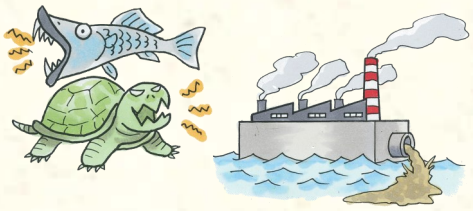
人間の活動によって、豊かであった生物多様性は失われつつあります。

原因１：開発と乱獲



原因２：里山などの管理不足

原因３：外来種や化学物質



原因４：地球温暖化

■わたしたちができること

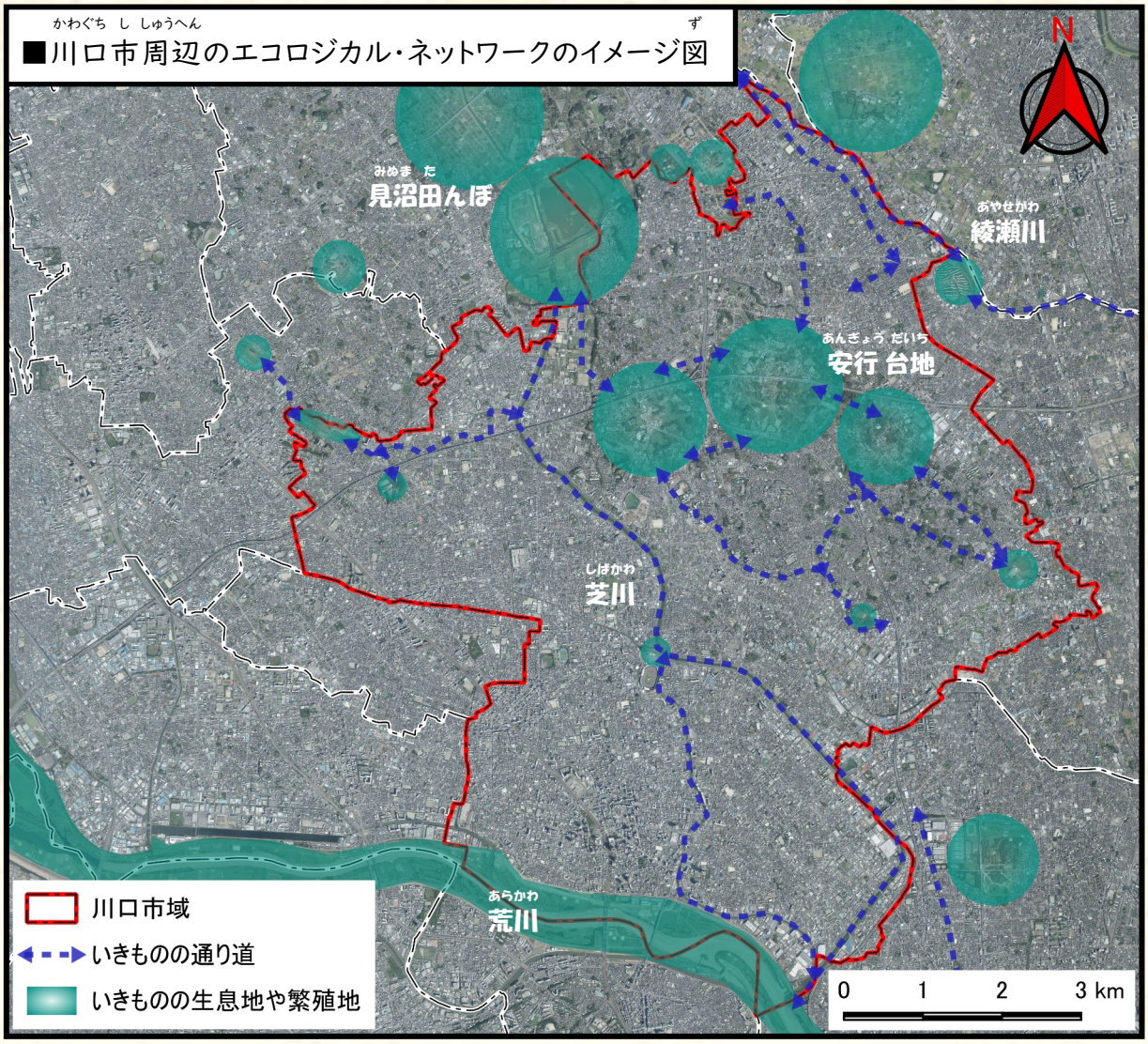
わたしたち一人ひとりが自然やいきものと触れ合い、生物多様性との関わりを知ることが大事です。さらに食品ロスを減らしたり、環境にやさしい商品を購入したりと、身近なところから行動することが生物多様性を守ることにつながります。

緑でつなげよう ～エコロジカル・ネットワーク～

川口市内には、公園や雑木林、田畑や河川などのいきものが生育・生息しやすい自然豊かな場所が点在しています。しかし、点在している状況は、いきものの移動が制限されてしまうため、いきものにとって暮らしやすい環境とはいえません。市内に点在している生息地や繁殖地となっている場所を、公園や街路樹などでつなぐことで、繁殖場所やエサを確保しやすくなるなど、いきものにとって暮らしやすい環境をつくることができます。このような、いきものの移動が可能となるようなつながりを「エコロジカル・ネットワーク」といいます。

わたしたちも庭やベランダに草花を植えたり、街路樹や生け垣、河川を大切にするなど、一人ひとりが豊かなエコロジカル・ネットワークの形成を心がけることが重要です。

■川口市周辺のエコロジカル・ネットワークのイメージ図



空中写真出典：国土地理院空中写真2019年

さくいん
索引

種名	収録ページ
アオイトトンボ	17
アオサギ	6
アオジ	12
アオスジアゲハ	33
アオダイショウ	13
アオドウガネ	29
アオバト	6
アオマツムシ	20
アオメアブ	40
アオモンイトトンボ	17
アカサシガメ	24
アカシジミ	34
アカスジカメムシ	26
アカスジキンカメムシ	25
アカタテハ	35
アカハネナガウンカ	24
アカハラ	11
アカボシゴマダラ	36
アカホシテントウ	31
アキアカネ	19
アゲハ	33
アケビコノハ	39
アジアイトトンボ	17
アシダカグモ	41
アシナガモモブトスカシバ	37
アズマヒキガエル	14
アズマモグラ	4
アトリ	12
アブラゼミ	23
アメリカザリガニ	43
アメンボ	24
アライグマ	4
イオウイロハシリグモ	40
イソシギ	8
イソヒヨドリ	11
イチモンジセセリ	36
イチモンジチョウ	35
イボバッタ	22
ウキゴリ	15
ウグイス	10
ウシガエル	14
ウスバカゲロウ	28
ウスバカミキリ	31
ウスバキトンボ	19
ウズラカメムシ	25
ウチワヤンマ	18
ウメエダシャク	38
ウラギンシジミ	34
ウラナミシジミ	34
ウンモンスズメ	38
エゴヒゲナガゾウムシ	32
エサキモンキツノカメムシ	26
エナガ	10
エンマコオロギ	20
オイカワ	15
オオアオイトトンボ	17
オオウンモンクチバ	39
オオカマキリ	23
オオクチバス	16
オオシオカラトンボ	20
オオジュリン	12
オオスカシバ	38
オオスズメバチ	27
オオセンチコガネ	29
オオタカ	8
オオハクチョウ	5
オオハナアブ	40
オオバン	7
オオフタオビドロバチ	27
オオホシオナガバチ	26
オオホシカメムシ	25
オオミズアオ	37
オオヤマトンボ	18
オオヨコバイ	24
オオヨシキリ	11
オカダンゴムシ	43
オシドリ	5
オナガ	9
オナガガモ	5
オナガグモ	40
オナガササキリ	21
オニグモ	41
オニヤンマ	18
オンブバッタ	21
カイツブリ	6
カケス	9
カシラダカ	12
カタシロゴマフカミキリ	32
カダヤシ	16
カトリヤンマ	17
カナブン	30
カネタタキ	20
カノコガ	39
カブトムシ	29
カムルチー	16
カメノコテントウ	31
カヤネズミ	4
カラスアゲハ	33
カルガモ	5
カワウ	6
カワセミ	9
カワラバト(ドバト)	6
カワラヒワ	12
カンムリカイツブリ	6
キアゲハ	33
キアシナガバチ	27
キイトトンボ	17
キイロサナエ	18
キイロテントウ	31
キイロホソガガンボ	39
キザハシオニグモ	41
キジ	5
キジバト	6
キセキレイ	12
キタキチョウ	33
キタテハ	35
キハダエビグモ	42
キハダカニグモ	42
キボシカミキリ	32
キマダラカメムシ	25
キマダラセセリ	36
キマダラミヤマカミキリ	31
キマワリ	31
キムネクマバチ	27
ギンイチモンジセセリ	36
キンクロハジロ	6
キンケハラナガツチバチ	26
ギンブナ	15
ギンヤンマ	18
クイナ	7
クサガメ	13
クサギカメムシ	25
クビキリギス	21
クマゼミ	23
クモヘリカメムシ	25
クルマバッタ	22
クルマバッタモドキ	22
クロアゲハ	33

種名	収録ページ
クロイトトンボ	17
クロウリハムシ	32
クロカナブン	29
クロコノマチョウ	36
クロスジギンヤンマ	18
クロトゲハムシ	32
クロハネシロヒゲナガ	36
クロバネツリアブ	39
クロベンケイガニ	43
クロボシツツハムシ	32
クロマダラソテツシジミ	34
クロヤマアリ	28
クワカミキリ	32
ケラ	20
コアオハナムグリ	30
コアジサシ	8
コイ	15
ゴイサギ	6
コオイムシ	24
コオニヤンマ	18
コガタスズメバチ	27
コガネグモ	41
コガネムシ	29
コカブト	29
コカマキリ	23
コガモ	5
コクサグモ	40
コクワガタ	29
コゲラ	9
コサギ	7
コシアキトンボ	18
コジュケイ	5
コチドリ	8
コチビミズムシ	24
コノシメトンボ	19
コバネイナゴ	21
コフキコガネ	29
コフキゾウムシ	32
コフキトンボ	18
コブドウトリバ	37
ゴマダラカミキリ	32
ゴマダラチョウ	35
ゴミグモ	41
コミスジ	35
コムラサキ	35
コロギス	20

種名	収録ページ
ササゴイ	6
サザナミスズメ	37
サシバ	8
サトキマダラヒカゲ	36
サトユミアシゴミムシダマシ	31
サビキコリ	30
シオカラトンボ	20
シオヤアブ	40
シジュウカラ	10
シマサシガメ	24
シマヘビ	13
シメ	12
シモフリスズメ	37
ジャコウアゲハ	33
ジョウカイボン	30
ショウジョウトンボ	18
ジョウビタキ	11
ショウリョウバッタ	21
ショウリョウバッタモドキ	21
ジョロウグモ	41
シラホシコゲチャハエトリ	42
シラホシハナムグリ	30
シロオビノメイガ	37
シロカネイソウロウグモ	40
シロスジアオヨトウ	39
シロテンハナムグリ	30
シロハラ	11
スジエビ	43
スジグロシロチョウ	33
スジベニコケガ	39
スズバチ	27
スズメ	11
セイヨウミツバチ	27
セグロアシナガバチ	27
セグロカモメ	8
セグロセキレイ	12
セスジイトトンボ	17
セスジスズメ	38
セッカ	11
セマダラコガネ	29
センノキカミキリ	32
ダイサギ	6
ダイミョウセセリ	36
タイリクバラタナゴ	15
タケオオツクツク	23
タシギ	8

種名	収録ページ
タマムシ	30
チクニハエトリ	42
チャイロムシヒキ	40
チャバネセセリ	36
チャミノガ	37
チュウガタシロカネグモ	41
チュウゴクアミガサハゴロモ	24
チュウサギ	7
チョウゲンボウ	9
チョウトンボ	18
ツクツクボウシ	23
ツグミ	11
ツチイナゴ	21
ツヅレサセコオロギ	20
ツバメ	10
ツバメシジミ	34
ツマキチョウ	33
ツマグロオオヨコバイ	23
ツマグロヒョウモン	35
ツミ	8
ツメクサガ	39
ツユムシ	21
テナガエビ	43
テングチョウ	35
ドウガネブイブイ	29
トウキョウヒメハンミョウ	28
トゲシラホシカメムシ	25
ドジョウ	15
トノサマバッタ	22
トビ	8
トビイロシワアリ	28
ドヨウオニグモ	41
トラツグミ	11
ナガコガネグモ	41
ナガサキアゲハ	33
ナガメ	26
ナゴヤサナエ	18
ナツアカネ	19
ナナフシモドキ	22
ナナホシテントウ	30
ナマズ	15
ナミテントウ	30
ナミホシヒラタアブ	40
ニイニイゼミ	23
ニゴイ	15
ニホンアカガエル	14

さくいん
索引

種名	収録ページ
ニホンアマガエル	14
ニホンカナヘビ	13
ニホンスッポン	13
ニホンミツバチ	27
ニホンヤモリ	13
ヌマガエル	14
ヌマチチブ	15
ネコハエトリ	42
ノコギリカミキリ	31
ノコギリクワガタ	28
ノシメトンボ	19
ノスリ	8
ハイイロゲンゴロウ	28
ハイタカ	8
ハクセキレイ	12
ハクビシン	4
ハグロトンボ	17
ハシビロガモ	5
ハシブトガラス	9
ハシボソガラス	9
ハナグモ	42
ハネナガイナゴ	21
ハヤブサ	9
ハラクロコモリグモ	40
ハラビロカマキリ	23
ハラビロトンボ	19
バン	7
ヒカゲチョウ	36
ヒガシキリギリス	21
ヒガシニホントカゲ	13
ヒクイナ	7
ヒグラシ	23
ヒゲジロハサミムシ	20
ヒゲブトハナムグリ	29
ヒシクイ	5
ビジョオニグモ	41
ヒドリガモ	5
ヒバカリ	13
ヒバリ	10
ヒメアカタテハ	35
ヒメウラナミジャノメ	36
ヒメカメノコテントウ	30
ヒメギス	21
ヒメジャノメ	36
ヒメジュウジナガカメムシ	24
ヒメタニシ	43

種名	収録ページ
ヒメハラナガツチバチ	26
ヒメマダラナガカメムシ	24
ヒヨドリ	10
ヒラタクワガタ	28
ヒルガオトリバ	37
フクロウ	9
フタモンアシナガバチ	27
ブチヒゲカメムシ	25
ブルーギル	16
ベッコウハゴロモ	24
ベニシジミ	34
ベニマシコ	12
ベンケイガニ	43
ホオアカ	12
ホオジロ	12
ホシササキリ	21
ホシハジロ	6
ホシハラビロヘリカメムシ	25
ホシホウジャク	38
ホシミスジ	35
ホソハリカメムシ	25
ホソヒラタアブ	40
ホソヘリカメムシ	25
ホソミイトトンボ	17
ホソミオツネントンボ	17
ホタルガ	37
ボラ	16
ホリカワクシヒゲガガンボ	39
ホンドタヌキ	4
マイマイカブリ	28
マガモ	5
マダラカマドウマ	20
マダラバッタ	22
マハゼ	15
マミジロハエトリ	42
マメコガネ	29
マメハンミョウ	31
マルカメムシ	25
ミカドトックリバチ	27
ミシシッピアカミミガメ	13
ミズイロオナガシジミ	34
ミツモンキンウワバ	39
ミドリシジミ	34
ミドリヒョウモン	35
ミナミメダカ	16
ミノウスバ	37

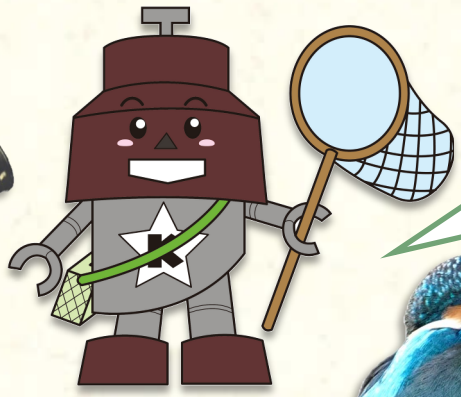
種名	収録ページ
ミヤマカミキリ	31
ミンミンゼミ	23
ムクドリ	11
ムネアカオオクロテントウ	31
ムラサキシジミ	34
ムラサキツバメ	34
メキリグモ	42
メジロ	11
モクズガニ	43
モズ	9
モツゴ	15
モモノゴマダラメイガ	37
モリチャバネゴキブリ	23
モンキチョウ	33
モンクロシャチホコ	39
モンシロチョウ	33
モンスズメバチ	27
ヤガタアリグモ	42
ヤハズハエトリ	42
ヤブキリ	20
ヤマカガシ	13
ヤマガラ	9
ヤマトコツブグモ	41
ヤマトシジミ（昆虫）	34
ヤマトシジミ（貝）	43
ヤマトヤドカリグモ	42
ヤママユ	37
ユウマダラエダシャク	38
ユリカモメ	8
ヨコヅナサシガメ	24
ヨツスジトラカミキリ	31
ヨツボシオオキスイ	30
ヨツボシケシキスイ	30
ヨツボシトンボ	20
ヨツモンカメノコハムシ	32
ヨモギハムシ	32
ルリシジミ	34
ルリタテハ	35
ルリビタキ	11
ルリミズアブ	39
ワカケホンセイインコ	9
ワカバグモ	42
ワキグロサツマノミダマシ	41
ワラジムシ	43

しゃしん　ていきょう　しゃ　いちらん

写真提供者一覧

	図鑑内の略称		図鑑内の略称
新井 勝彦	AK	鈴木 久瑠美	KU
新井 俊夫	AT	鈴木 健人	KE
岩川 博和	IH	寿原 淑郎	SY
内田 大貴	UD	関 龍也	SR
江藤 弘道	EH	髙瀬 雅陽	TM
小川 晴美	OH	長 恵子	CK
音吉 一希／音吉 悠希	OT	中嶋 理人	NR
上村 果蓮	KM	西尾 研二	NI
河原 多津男	KT	沼田 健次	NU
黄 凱操	KK	野崎 将史	NM
小林 漣	KR	日野 綾子	HA
小室 嘉輝	KY	平川 幹典	HM
斉藤 桜介	SO	藤波 不二雄	FF
齊藤 直也／齊藤 佳也	NY	松田 茂樹	MS
菅野 正信	SM	宮澤 文策	MB
須崎 聡	SS	山本 光莉	YH
須崎 昇	SN	吉野 修弘	YN

※ 五十音順（敬称略）



たくさんの
写真をご提供いただき、
ありがとうございました。

川口いきもの図鑑
ホームページ

発行：川口市 環境部 自然保護対策課
令和６年３月